

理スルコトヲ知リタリシナルベシ吾人ハ快活ト禮節トヲ以テ會議ヲ司會セラレタル氏ニ感謝シ併テ氏カ困難ナル任務ノ後
休息セラレンコト及氏ノ將來ノ成功ヲ祈ツテ已マサルモノナリ

齋藤子爵—日本側ハ英國全權ノ動議ヲ衷心支持ス

議長—予ハ「ブリヂマン」氏ノ議長ニ對スル謝意表示ノ動議並ニ齋藤子爵ノ右動議支持及兩氏ノ友好的言辭ニ謝意ヲ表ス
幸ニシテ本會議ニ於ケル凡テノ事項ニ付キ示サレタル兩全權ノ援助ニヨリ議長ノ任務ハサシテ困難ナルモノニ非サリキ予
ハ本會議ニ於テ日英兩國全權ト相交リシコトヲ記念スヘキ特權トシ且予ニ向ツテナサレシ謝意表示ヲ深く銘記スルコトヲ
茲ニ再言シ得ルノミ

予ハ茲ニ本會議閉會ヲ宣ス

午後四時十五分會議閉會

第四編 幹部會議事錄

附、一九二七年六月二十四日非公式幹部會議事錄

議長 ダブリュ、シイ、ブリヂマン

第一、第一回幹部會

一九二七年六月二十一日火曜日於壽府

出席者

米國側

海軍少將

ヒュー、ギブソン
ヒラリー、ビー、ジョーンズ
エイ、ダブリュ、ダレス

英國側

子爵

ダブリュ、シイ、ブリヂマン
セシル、オブ、チエルウツド
サー、エフ、エル、フイーールド

海軍中將

日本側

海軍大將子爵

齋藤實

子爵

石井菊次郎

佐分利貞男

海軍中將

小林躋造

事務總長

ヒュー、アール、ウイルソン
アール、エイチ、キヤムベル

佐藤 尚武

ハワード、アール、ハストン

佛國情報部員

伯爵

クラウズエル

海軍中佐

ドルーズ

ジャン、ポール、ボンクール

伊國非公式傍聽者

海軍大佐

ドン、ファブリチオ、ルスボリ

海軍中佐

ドン、ウムベルト、クシア、デイ、
サンタ、オルソラ

「ギブソン」氏ハ幹部會ハ本會議ノ事業ヲ進捗セシムル目的ヲ以テ開カレタルモノニシテ幹部會ニ於ケル代表者ハ列國自由ニ之ヲ任命シ得ト述ヘ次ノ簡單ナル覺書ヲ朗讀セリ即チ

「六月二十日日英米各政府ニ依ツテ提出セラレタル提案ヲ適宜考量センカ爲専門委員會ヲ設ケ三國ノ現存巡洋艦、驅逐艦、潛水艦並ニ既ニ協贊ヲ經豫算割當濟ニ屬スル此種艦艇ノ計畫噸數ニ關スル統計ヲ交換センコトヲ提議ス斯クノ如クセハ本會議ハ事實ノ協定基礎ノ上ニ審議ヲ開始シ得ルニ至ルヘシ」

「ブリヂマン」氏ハ「専門委員會」及「統計ノ交換」ナル語句ハ「専門家ノ委員會」及「情報及統計ヲ交換スヘク」ナル語ヲ以テセハ更ニ明瞭ナラント述フ

「セシル」子爵ハ斯ル委員會カ形式ニ拘泥セサルヲ希望シ且「技術顧問ハ情報ヲ交換スル爲會合スヘシ」ナル語句ヲ提議ス

「ジョーンズ」少將ハ情報ハ必ス權威アルモノト認メラルル要アルヲ以テ委員會ハ委任事項ニツキ何等カ公式ノ地位ヲ有セサルヘカラスト述フ

石井子爵ハ専門委員會ハ一般問題ニ關スル情報ヲ交換スルカ故ニ本會議ニ對スル準備委員會ノ一種ナリト指摘ス

「ジョーンズ」少將ハ日本ノ噸數案ハ多少異リ特ニ潛水艦ニ關シテハ委員會ハ多少妥協シテ委員會自身又ハ華府協定ノ基準噸數ヲ提出セサルヘカラスト述フ

石井子爵ハ「豫算割當濟云々」ノ後ニ「且三國提案ヲ明瞭ナラシムヘキ何等情報」ナル語ヲ加フヘシト「セシル」子爵ノ提議ニ同意ス

「ギブソン」氏ハ之ハ統計交換及調和ノ問題ナレハ「協定統計ヲ交換」ト云フ方望マシト述フ
斯クテ正文ハ修正ノ上採用セラレタリ

「セシル」子爵ハ總會再會ノ期日如何ト問フ
「ギブソン」氏ハ不意ノ點ニ付テハ非公式ニ討議ヲナスヘシトノ意見ヲ有ス蓋シ之ヲ公ノ席ニ於テ發表セサル方事業ノ完成ヲ早カラシメ惹イテ他國トノ協定ヲ容易ナラシムルカ爲ナリ氏ハ非公式ニ且腹藏ナク討議シタル結果基礎ノ又ハ部分的協定ノ成立ヲ宣言シ得ルニ至ル迄會議ヲ開催セサルヲ可トストナセリ

「フィールド」中將ハ専門委員會ハ幹部會ニ其ノ承認ヲ求ムル爲提出スヘキ一致ノ基礎ニ到達スル目的ヲ以テ提案ヲ討議スルモノナリト解ス

「ブリヂマン」氏ハ相違點ヲ調和スル爲ニハ専門委員會ヨリ更ニ廣汎ナルモノ必要ナリト述ヘ且専門委員會ヲ更ニ増員スヘシトノ議長ノ意見ニ同意ス

石井子爵ハ最初各國代表間見解ノ相違ヲ公開ノ席上ニ於テ陳述シ新聞ニ面白カラサル評論ノ機會ヲ與フルハ賢明ニ非スト述フ

「セシル」子爵ハ石井子爵ニ同意シ私的會談ハ眞ニ私的ニシテ且委員會會合ニ非ラサルモノナラサルヘカラスト主張シ公式的會合ハ常ニ悲慘ナル結果ヲ齎スモノト信スト述フ

議長ハ幹部會カ其ノ會合ノ後新聞公表文ヲ發表スヘキヲ提議ス
審議ノ後幹部會會合後ニ於テ公表文發表ノコトニ決定セラレタリ

幹部會ハ次ノ如キ修正決議ヲ採用シ且直チニ公表セリ

「六月二十日日英米各政府ニ依テ提案セラレタル提案ヲ適宜考量センカ爲專門委員會ヲ設ケ三國ノ現存巡洋艦、驅逐艦、潛水艦、並ニ協賛ヲ經豫算割當濟ニ屬スル此種艦艇ノ計畫噸數ニ關スル協定統計ヲ交換シ且三國提案ヲ明瞭ナラシムヘキ何等情報ヲ交換センコトヲ提議ス斯クノ如クセハ本會議ハ事實ノ協定基礎ノ上ニ審議ヲ開始シ得ルニ至ルヘシ」
幹部會ハ金曜日ニ再會ヲ決シテ午前十一時三十五分開會セリ

第二、非公式幹部會

一九二七年六月二十四日金曜日於壽府

出席者

米國側

海軍少將

ヒュー、ギブソン
ヒラリー、ビー、ジョーンズ
エイ、ダブリュ、ダレス

英帝國側

英本國

子爵

ダブリュ、シイ、ブリヂマン
セシル、オブ、チエルウツド
サー、エフ、エル、フィールド
サー、ジョセフ、クツク
サー、ジェイムス、バール

海軍中將

濠太利
新西蘭

日本側

海軍大將子爵

齋藤實

子爵

石井菊次郎

佐分利貞男

海軍中將

小林躋造

事務總長

ヒュー、ウイルソン
アール、エツチ、キヤムベル
佐藤尙武
ハワード、アール、ハストン

書記局側

假議長「ギブソン」氏ハ火曜日ノ非公式會合ニ於テ各代表カ相會シ本會議ノ事業ヲ開始スルニ決シタル旨ヲ述ヘ一切ノ幹部會ノ會合ヲ通シ「ブリヂマン」氏ヲ議長ニ推サンコトヲ提議ス

石井齋藤兩全權右提議ヲ支持シタルヲ以テ「ブリヂマン」氏ハ幹部會議長タルコトヲ諾シ議長席ニ着ケリ

議長ハ幹部會ノ議題ヲ定ムルコト適當ナリヤ否ヤヲ諮レリ

「ギブソン」氏ハ議題ノ問題ニハ觸レサル方可ナル可ク重要問題ノ場合ニハ前以テ通告ヲ爲スノ途モアリ旁々此種會合ハ出來得ル限り非公式ノモノトスルコト望マシキ旨ヲ述フ

議長ハ幹部會ノ召集狀ニハ一定ノ議題ヲ記入スルト共ニ「他ノ事項」ナル字句ヲ附加シ以テ如何ナル他ノ問題ヲモ論議シ得ルコトトスヘシト述ヘ其ノ通決定ス

議長ハ今日迄議事進行ノ共通基礎ヲ見出サンカ爲行ハレタル會談ノ結果潛水艦ニ付テハ稍々共通ノ基礎ニ近キモノ成リタルヲ以テ專門委員會ハ右ニ依リ研究ヲ開始シ總會ニ於ケル論議ノ爲ノ一般協定案ヲ作成シ得ヘシト述フ

「フィールド」中將ハ潛水艦問題ニ付テハ非公式會談ノ結果日英專門家ハ論議ノ基礎ニ付著シク意見接近シタルカ該基礎ハ之ヲ「ジョーンズ」少將及米國專門家ニ示シ置キタルニ付近々回答アルベシト思惟ス本問題ハ日下ノ處米國側ノ同意サヘアラバ專門委員會ニ持出シ得ベキ程度ニアリ何レ共通ノ基礎ヲ得次第本問題ニ關シ專門委員會ノ爲議題ヲ配布シ一定ノ討議主題ノ下ニ詳細ニ互リテ協定作成ノ爲努力スルコトヲ得ベク斯クシテ吾人ハ各艦種ニ關スル協定ヲ作成スルコトヲ得ベシ即チ或ル特定ノ艦種ニ關スル協定ヲ待タズシテ豫メ基礎準備ヲナスコトヲ得ベシト述ブ

「ジョーンズ」少將ハ論議ノ一般基礎ニ關スル確定案作成前枝葉ノ點ヲ解決セントスルハ不適當ナルベク先づ協定ノ一般基礎ヲ知レバ自然潛水艦問題ヲモ含ム問題ノ詳細ニ關シテ解決シ得ヘシ又政治事情ト關連シテ問題解決ノ根本基礎ヲ發見スルコト必要ナリ尙潛水艦問題及ヒ巡洋艦驅逐艦問題ヲ考慮スヘキ二個ノ委員會設置案ノ提議アリシヤト述ヘ「ギブソン」氏之ヲ支持ス

石井子爵ハ日本側ハ各種非公式會談ノ經過ヲ知ラサルヲ以テ專門家ヲシテ委員會席上ニ於テ今少シ公式ニ説明セシムルコト適當ナリト信スト述ヘ討議ノ議題ニ關シ各國專門家ニ於テ巡洋艦及驅逐艦ノ問題ト潛水艦ノ問題トヲ區分シ夫々一ノ委員會ヲ設ケテ之ヲ研究ヲナスコトヲ提議シ唯專門家中ニハ同時ニ兩委員會ニ出席ヲ希望スル向アルヘキト共ニ各委員會相

互ニ密接ノ關係ヲ有スルニ鑑ミ兩委員會ヲ同時ニ開催スルハ始ント不可能ナルヘシト述フ

「ギブソン」氏ハ右委員會ハ各其ノ審議方法ヲ自由ニ決定スルコトトシ若シ委員會ニ於テ意見全然相反シ行詰リトナリタル際ハ之ヲ幹部會ニ附託シテ多大ノ時間ヲ節約シ得ヘシト述フ

議長ハ若シ吾人カ先シテ多クノ協定ヲ實現スルコトヲ得ハ輿論ニ好影響ヲ與フヘシト述ヘ專門委員會ハ幹部會又ハ總會ノ最終的決定ニ惡影響ヲ及ホスコトナクシテ其ノ適當ト思惟スル事項ヲ一々取上クルコトヲ得ト述フ

「サー、ジティムス、ボール」氏ハ專門委員會ハ果シテ「ジョーンズ」少將ノ所謂論議ノ根本的基礎ヲ考究セントスル意アリヤト問フ

「ギブソン」氏ハ如何ナル協定ノ基礎存セシヤヲ確ムルハ問題ヲ簡單ナラシメ一般原則ニ關スル討議ヲ簡明ナラシムヘシト答フ

議長ハ「ジョーンズ」少將ノ所謂「一般原則ニ關スル協定作成」トハ如何ナル意味ナリヤト問フ

「ジョーンズ」少將ハ先ツ或ル種ノ政治事情ニシテ解決ヲ要スルモノアリト述ヘ此等ヨリ專門委員會ハ時局ニ處スヘキ道及問題考慮ノ方法ニ關スル一般の指針ヲ得ヘシト説明ス

「セシル」子爵ハ潛水艦問題ノ基礎ニ付テノ討議ノ結果ヲ知ランコト並ニ他ノ問題ニ關スル討議ノ基礎ヲ考究シ得ルヤヲ確メンコトヲ欲シ結論ハ政治的考慮ニ從ヒテ到達シ得ヘシト述フ

議長ハ一般原則ハ各委員ニヨリ異ルヲ以テ回ヲ重スルニツレテ渾然タル一體トナリ得ヘシト述フ

「ギブソン」氏ハ幹部會ハ委員會ニ於ケル故障發生ノ際之ヲ指導スヘキモ目下ハ一般原則ヲ定ムルヲ可トスト論ス

「ジョーンズ」少將ハ幹部會ハ專門委員會カ量的の問題ヲ取扱フニ先チ巡洋艦問題ヲ討議スヘキヤ又制限ハ總噸數ニヨルヘキヤ隻數ニヨルヘキヤ或ハ兩者ヲ併セ用フヘキヤ等ニ付討議スルコトヲ欲スルヤト問フ

議長ハ右ノ意向ナル旨ヲ説明ス

「フイールド」中將ハ總テノ艦種艦型ヲ通シ一般の原則ヲ定ムルハ殆ント不可能ナリ巡洋艦ニ對スル原則ハ潛水艦ニ對スル原則ト同一ナラサルヘシ故ニ非公式會談ニ依リ各艦種及艦型ヲ討議シ其ノ共通基礎ヲ發見スル方可ナリト信ス例ハ非公式會談ニ依リ總噸數ノ原則カ隻數ノ原則ヨリ可ナリト判明セハ吾人ハ後者ニ關スル吾人ノ主張ヲ拋棄スルモ可ナル次第ナリ又非公式會談ニヨリ潛水艦種ノ二分類、各艦種最大噸數及代換年齡ヲ定ムルコトヲ得ヘク尙之ヲ詳細ニ論スルモ妨ケナク其ノ終了ヲ待チテ結果ヲ幹部會ニ回附シテ政治的の見地ヨリ之ヲ考慮シ總會ニ於テ宣言スルコトヲ得ヘシ即チ一般の原則ヲ待ツコトナク漸進的ニ問題ヲ取扱フコトヲ得ヘシト述フ

「ジョーンズ」少將ハ二個ノ委員會ヲ設ケ一ハ巡洋艦及驅逐艦ノ問題ヲ他ハ潛水艦ノ問題ヲ取扱フコトスルノ案ニ賛成シ目下ノ處其ノ任務ハ噸數及最大限度審議ノ基礎ヲ發見スルコト並二分類ヲ認ムヘキヤ又ハ制限ハ隻數ニヨルヘキヤ隻數、總噸數ノ兩者ニヨルヘキヤ等ニ限ラルヘシト述フ然レトモ各單艦ノ大サ及艦齡ノ問題ハ一般の基礎發見サレタル後始メテ討議シ得ヘキ重大ナル困難ヲ惹起スヘシ例ヘハ日本提案ハ「現狀」ヲ以テ艦齡ノ實際的基礎トスヘシト云フモ「現狀」ノ意味如何ニヨリテハ艦齡ニ非常ノ相違ヲ生スヘシ從ツテ艦齡ニ關スル提案ヲ討議セントスルコトヲ知ルニ非ンハ吾人ハ艦齡ニ付何等決定スルコト能ハサルヘシト述フ

「フイールド」中將ハ日本全權ハ既ニ此點ヲ讓歩シ各國ニ對スル總噸數ノ問題ヲ議スルノ用意アルモノト了解スト述ヘ非公式會談ニ依リ或基礎ヲ發見スルニ至ル迄正式討議ニ入ラサルヘキヲ希望ス

「ギブソン」氏ハ若シ專門家間意見交換ノ結果ヲ知ルヲ得ルニ於テハ幹部會ハ其ノ決定ヲナスコト容易ナラント述フ議長ハ幹部會ハ各艦種ヲ通シテ其ノ概要ヲ知ルニ非サレハ或一定艦種ノミニ關スル最終決定ヲナササルヘキモノト了解スト述フ

「ジョーンズ」少將ハ純然タル技術的基礎ニ於テ潛水艦々齡ヲ研究セハ吾人ノ決定セル艦齡ハ艦齡ヲ基礎トスル「現狀」ニ立脚スル日本提案ト一致セサルモノアリ例ヘハ日本案及巡洋艦々齡十六年ヲ基礎トスル「現狀」ニ關シテ云ヘハ若シ右艦

齡ヲ二十年ニ引上クルニ於テハ各國海軍ノ現勢力ニ重大ナル相違ヲ來スヘシ潛水艦齡ヲ十五年トスル見地ヨリセハ艦齡十三年ヲ基礎トスル一國海軍勢力ハ非常ナル相違アリト指摘ス

「フイールド」中將ハ日本側ハ總噸數ノ見地ヨリ潛水艦問題ヲ考慮セントスル用意アリ日本側ハ各艦種ニ於ケル總噸數ヲ適當ト認ムルヲ以テ吾人ハ艦齡決定ノ曉幾何ノ現存軍艦カ其ノ内ニ包含セラルヘキヤヲ調査セサルヘカラス而シテ右ハ主要問題決定ニ次イテ來ル問題ナリト指摘ス

「ジョーンズ」少將ハ日本提案ノ潛水艦勢力算定ハ一定艦齡ヲ基準トセルモノナリト述フ

「フイールド」中將ハ日本側ハ潛水艦問題ノ討議ニ同意シ且各艦種ニ於ケル一定總噸數ヲ要求セルヲ以テ吾人ハ總噸數及其ノ包含スル問題ヲ討議セサルヘカラス本問題ニ付テハ過渡的期間アリ若シ「現狀」ニシテ之ニ合致セサル場合吾人ハ此過渡的期間ニ關スル或種ノ協定ヲ結フノ必要アルヘシト述フ

「セシル」子爵ハ一般の見地ヨリ考究ヲ進メンカ爲各國代表ヲ以テ構成スル一種ノ高級委員會ヲ組織スルノ要アリ他方專門委員會ヲ設定シ前者ノ會談ニ於テ行詰ヲ見ル場合專門家ノ援助ヲ求メ共ニ眼界ヲ廣クシテ論議スルコトヲ得ヘシ專門家ヲシテ潛水艦問題ヲ討議セシムルハヤカテ共通ノ了解ニ達スルコトヲ得ヘシト述フ

議長ハ艦齡其ノ他ニ關スル細目ハ專門委員會ニ於テ決定サルヘシ但シ右決定ニ同意スルヤ否ヤハ幹部會ノ自由ナリト述フ「ジョーンズ」少將ハ巡洋艦及驅逐艦ニ關シテモ同様委員會ヲ設定スヘシ巡洋艦及驅逐艦ニ關シテモ其ノ制限ヲ噸數ニヨルヘキカ隻數ニヨルヘキカ又ハ兩者ノ結合ニヨルヘキカニ關シテハ素ヨリ討議ノ基礎アリ然レトモ艦齡ノ細目ニ至リテハ制限ヲ考慮スヘキ基礎ニヨリテ變更ヲ受クヘキコト明カナリト述フ

「セシル」子爵ハ專門家間協定成立ノ望アルニ至ラバ直チニ巡洋艦委員會ヲ組織シ若シ又他ノ艦種ニ付テモ協定成立ノ望アルニ至ラバ同様委員會ヲ組織スルコトニ同意ス

「ジョーンズ」少將ハ氏ノ論議セル點ハ日本提案ノ細目ニ非シテ相對的及其ノ他ノ三國海軍力ヲ決定スヘキ「現狀」ニ關

スル其ノ原案ナリト説明シ右「現狀」ハ日本側説明ニ依レハ艦齡ヲ基礎トセルモノナルカ專門委員會ハ算定ノ基礎ヲ知ラスシテ艦齡ヲ決定スルコト能ハサルヘシト述フ

議長ハ此點ハ專門委員會ノ見解ヲ俟タザレバ決定シ得サルヘシト述フ

「サー、ジェイムス、ボール」氏ハ吾人ハ幹部會ノ一員ナルヲ以テ先ヅ一般の用語ヲ以テ解決策ヲ幹部會ニ提議セハ有益ナルヘシ幹部會ハ次デ之ヲ專門委員會ニ附議シ其ノ解決ヲ求ムルコトヲ得ヘシ吾人ニシテ先ヅ「フィールド」中將ノ提案ヲ討議シタリシナランニハ潛水艦問題ヲ專門委員會ニ回附スルニ關シ一層精通シ得タリシナラント信スト述フ

議長ハ若シ專門委員會ニシテ潛水艦ニ關スル一致點ト不一致點トヲ討議スルニ於テハ委員會ハ其ノ一致ニ到達セル點ヲ報告シ得ヘク殘餘ノ點ハ幹部會ニ回付シテ其ノ決定ニ附スルコトヲ得ヘシ斯クセハ議事ヲ進行セシムルコト大ナルヘシト述フ

「ジョーンズ」少將ハ最モ重要ナル點ハ實ニ巡洋艦ノ問題ナリ微細ノ點ニ先チ主要ノ論點ニ付決定ニ達スルコト望マシト述フ

「フィールド」中將ハ潛水艦ヲ驅逐艦ヨリ先ニ討議スルコト肝要ナリ驅逐艦ニ關スル英國側ノ希望ハ潛水艦ニ關スル決定ニ依リ著シク影響セラル而シテ米國案ニテハ驅逐艦及巡洋艦ハ過渡の期間中一括シテ討議スヘキモノトセルモ吾人ハ未ダ此兩者ヲ別々ニ考慮スヘキヤ否ヤヲ決定シ居ラス右決定ヲ見ル迄ハ巡洋艦ヲ潛水艦ヨリ先ニ取り上ケ討議スルコト不可能ナリ蓋シ潛水艦討議ヨリ豫期セザル結果ヲ生スル場合ニハ驅逐艦ニ關スル英國要求ハ之ヲ變更セザルベカラサルニ至ルヲ以テナリト述フ

「ジョーンズ」少將ハ驅逐艦隻數ノ問題ハ協定ヲ基礎トセサルヘカラサルモノト了解スト述フ

議長ハ專門家ノ討議ヲ成功セシムル爲充分意見ノ一致シタル問題ハ一切之ヲ專門委員會ニ附議シテハ如何而シテ先ヅ潛水艦ヨリ始メテハ如何ト提議ス

「ダレス」氏ハ次ノ決議案ヲ提出ス

「幹部會ハ專門委員會ガ直ニ二個ノ小委員會ヲ組織シ一ハ巡洋艦及驅逐艦ノ制限問題ヲ他ハ潛水艦ノ制限問題ヲ研究スヘキコト竝右專門小委員會ノ豫備の建議ハ之ヲ幹部會ニ提出スベキコトヲ決議セリ右ハ終局のニ採用サルヤモ知レズ且現ニ爲サレタル專門的建議ノ調節ヲ必要トスルヤモ知レサル基礎の原則又ハ噸數ニ關シ各國ノ地位ヲ拘束スルコトナキモノトス」

石井子爵ハ右決議ヲ受諾スルノ用意アリト述フ

「ダレス」氏ハ例ヘバ艦齡ニ付テ云ヘハ日本提案ノ所謂「現狀」ハ艦齡ヲ基礎トスルヲ以テ同案ニ基キテ艦齡ヲ決定スルモノトセハ重大ナル問題タルベシ專門委員會ハ巡洋艦艦齡ヲ二十年ト定ムルコトヲ得ルモ之ヲ一般の提議ニ適用セントセバ幹部會ハ十九年トナササルヲ得サルヤモ知レスト説明ス

議長ハ斯カル點ハ幹部會ニ提出セラレ幹部會ハ之ニ付何等決定スト云ヘハ足ルニ非サヤト述フ

「セシル」子爵ハ簡明ニシテ一般のナル語ヲ以テ新聞ニ公表文ヲ發表セハ可ナルヘシト述ベ齋藤子爵之ニ同意ス

「ギブソン」氏ハ吾人ハ本會議及其ノ委員會ニ佛伊傍聽者ノ出席ヲ歡迎スル旨ヲ通告シタル關係上將來ノ幹部會ノ會合ニ關シテモ此等傍聽者ニ通告スルコト可ナルヘシト提議ス

此等傍聽者ヲ專門委員會ニモ出席セシムヘキヤニ關シ討議ヲナシタル後專門委員會ハ能フ限り會談ヲ基礎トスルコト可ナルヘク委員會ニ於ケル意見ノ相違ヲ含ム商議ハ能フ限り内密トスルコト適當ナルヘシト決定セララル

「セシル」子爵「ギブソン」氏及議長間ニ討議アリタル後議長ハ「ダレス」氏案ニ對シ左記修正案ヲ提出ス

『各全權ハ專門家ニ對シ一ハ巡洋艦及驅逐艦ノ問題ヲ他ハ潛水艦問題ヲ研究スヘキ二個ノ部門ヲ組織センコト竝此等ノ專門部門ノ豫備の建議ハ之ヲ幹部會ニ提出センコトヲ求メタリ、』

討議ノ後本日ノ會合ハ非公式會合ニシテ幹部會ニ非サル旨ヲ記錄ニ止ムヘキコトニ決定セラル右決定ノ後上記修正案ヲ討

議ス

石井子爵ハ原案末項ヲ「右専門的建議ノ調節ヲ必要トスルヤモ知レサル」ト修正セムコトヲ提議ス
右ノ結果左ノ決議採用セラル

『各全權ハ専門家ニ對シ一ハ巡洋及驅逐艦ノ問題ヲ他ハ潛水艦ノ問題ヲ研究スヘキ二個ノ部門ヲ組織センコト竝此等ノ専門部門ノ豫備的建議ハ之ヲ幹部會ニ提出セムコトヲ求メタリ但シ右ハ終局的ニ採用サルルヤモ知レス且右専門的建議ノ調節ヲ必要トスルヤモ知レサル其基礎原則又ハ噸數ニ關シ各國ノ地位ヲ拘束スルコトナキモノトス』

議長ハ新聞ニ對スル公表文案ヲ朗讀シ討議ノ結果左ノ形式ニ於テ採用セラル

『各國全權會合シ「ブリヂマン」氏ニ幹部會ノ議長タラムコトヲ求ムルニ決定セリ各國全權ハ専門家ニ對シ専門的見地ヨリ巡洋艦驅逐艦及潛水艦ノ制限問題ヲ研究スル爲部門ヲ作ラムコトヲ求ムルニ決定セリ』

議長ハ主力艦提議ニ關シ其ノ如何ナル地位ニアルヤヲ問ヒ本件ヲ總會ニ持出ス前ニ現存ノ意見ノ相違ヲ調和セシムル目的ヲ以テ成ヘク速ニ非公式又ハ其ノ他ノ委員會ニテ討議セラレンコトヲ希望シ本件ヲ不當ニ促進セシムルコトヲ欲セサルモ次回總會ニ於ケル本件ノ地位又ハ右會合前本件ニ入ルヘキ最上ノ方法ニ關スル他全權ノ意嚮ヲ承知シタシト述フ

「ギブソン」氏ハ華盛頓ニテ作成セラレシ訓令ハ本件討議ヲ豫想セサリシモノナリ本件ハ之ヲ不當ニ遲延スルコトヲ欲セサルモ之ヲ華盛頓ヘ回附セサルヘカラス華盛頓ニ於テ氏ノ報告ニ接シ英國案ニ對シテ考慮セル後發セラルヘキ訓令ヲ得ハ本件ヲ討議スルコトヲ得ヘシト述フ

石井子爵ハ英國提案ニ對スル日本全權ノ地位ヲ明白ニ表明セムコトヲ欲スル旨ヲ述ヘ全權委任狀ノ文言ニ依レハ日本全權ハ海軍々備制限ニ關スル如何ナル問題ヲモ討議スルノ權限ヲ附與セラレ居ルモ其ノ有スル訓令ハ差當リ巡洋艦驅逐艦及潛水艦ニ關スル問題ニ限定セラル然ルニ英國提案ハ國家經濟ノ重要問題ヲ包含スルヲ以テ「ギブソン」氏ト同様政府ニ請訓スルノ要アリト思惟ス故ニ新訓令接到迄本件討議ヲ延期セムコトヲ希望スト述フ

「ギブソン」氏ハ氏カ石井子爵ト全然同様ノ地位ニアルモ玆數日中ニ訓令ヲ接受スヘキヲ希望スト述フ
石井子爵ハ成ル可ク迅速ニ訓令ヲ接受スル様努力スルモ恐ラク一週間ヲ要スヘシト述フ

議長ハ其ノ立場ヲ諒トシ訓令接到次第議長ニ通報スヘシトノ日米全權ノ約束ニ感謝シ本件ニ關スル議事進行ノ遲緩ヲ詰問スル本國輿論ノ關係アルニ付出來得ル限り速ニ本件議事ヲ進メタシトノ希望ヲ表明ス

「ジョーンズ」少將ハ専門部内ノ大キサニ付質問シ討議ノ結果各國ヨリ四人ノ海軍士官ヲ出シ必要ノ際ハ補佐ヲ伴フコトヲ得ルニ決定セラル

事務總長ハ今後ノ會合ニ於ケル佛伊傍聽者ノ出席ヲ如何ニ取極ムヘキヤヲ問フ

「ギブソン」氏ハ正式委員會々合ノ通知ヲ發セムコトヲ提議ス

最後ニ主力艦ニ關スル英國提案ニ付公表文ヲ發スヘキヤ否ヤヲ討議シ結局本件ニ關シテハ之ヲ發セサルコトニ意見一致ス

午後十二時半閉會

第三、第二回幹部會

出席者

一九二七年七月八日（金曜日）於壽府

米國側

ヒュー、ギブソン

海軍少將

ヒラリー、ビー、ジョーンズ

エイ、ダブリュ、ダレス

海軍少將

エイ、テイ、ロング

英國側

英 本 國

同

エフ、エイチ、スコツフィールド

子爵

ダブリユ、シイ、ブリヂマン
セシル、オブ、チエルウッド

海軍中將

サー、エフ、エル、フィールド

同

オーブリー、スミス

海軍大佐

ダブリユ、エー、エヂアトン

加 奈 陀

濠 太 利

新 西 蘭

南 亞 聯 邦

愛 蘭 自 由 國

日 本 側

海軍大將子爵

齋 藤 實

子爵

石 井 菊 次 郎

海軍中將

佐 分 利 貞 男

海軍中將

小 林 躋 造

總書記局側

ヒュー、アール、ウイルソン
アール、エイチ、キヤムベル

佐 藤 尙 武

エイチ、アール、ハストン

エイチ、アール、ムーア

白 鳥 敏 夫

海軍大佐

伯爵

海軍中佐

クラウズエル

海軍中佐

ド ル ー ズ

海軍中佐

ジャン、ボール、ボンクール

海軍大佐

ル ス ボ リ

海軍中佐

ドン、ウムベルト、クジア、デイ、
サンタ、オルソラ

伊國非公式傍聽者

佛蘭西情報部

議長開會ヲ宣シ齋藤子爵ノ聲明アル旨ヲ述ブ

齋藤子爵ハ前同ノ幹部會ニ於テ日本全權ハ主力艦ニ關スル英國提案ニツキ政府ニ請訓セル旨ヲ述ベタルカ今般左記ノ如キ

訓令ニ接シタリト述フ

『英國提案中ニハ日本政府カ熟慮ノ上ニ非サレハ其ノ所見ヲ述ヘ難キ技術的問題鮮カラス同時ニ日本政府ハ主力艦ニ關シ或程度ノ了解ヲ遂ケンガ爲本問題ヲ上程スルコトヲ有利ナリト思考ス但シ本問題ノ處理ニ當リテハ之カ本會議ノ主要目的タル補助艦制限ノ支障トナラサル様注意スルコト肝要ナリ故ニ主力艦問題ハ補助艦ニ關スル協定成立後之ヲ討議スルコト適當ナルベシ』

議長ハ右ヲ玆ニ直ニ討議スルノ意向アリヤト問フ

石井子爵ハ今直チニ右ノ討議ニ入ルヲ欲セスト答ヘ訓令接到次第幹部會ニ通知スルノ義務アリト信シタリト述フ
「ギブソン」氏ハ米國政府ハ航空母艦ノ大キサ及代換年齡ニ關スル英國提案ヲ考究シタル結果補助艦ニ關シ協定ニ達スルヲ得ハ其ノ際右提案ニ關シ非公式ニ意見ノ交換ヲ行フニ反對セス米國政府ハ右意見交換ハ一九三一年ノ會議ニテ爲サルヘキ決定ヲ害セス寧ロ英國提案ヲ充分研究スル爲ノ資料ヲ供給スヘキ性質ノモノタルヘキヲ希望スト述フ

氏ハ更ニ本會議ノ他ノ任務カ首尾良ク終了シタル時ハ會議ハ英國提案ヲ華府條約國各政府ニ附議スルノ決議ヲナシ且全締約國ノ同意アルニ於テハ一九三一年ノ會議ハ八月ニ開催セスシテ寧ロ之ヲ同年早早ニ繰上ケ以テ同年十一月ヨリ實行セラヘキ主力艦代換計畫ニ關シテ同會議ノ爲スヘキ決定ノ結果ヲ考慮スル爲充分ナル時間ヲ有セシメンコトヲ提議ス

議長ハ右「ギブソン」氏聲明ヲ以テ主力艦問題ニ關スル決定ヲ一九三一年以前ニ他國ニ附議スルヲ希望スルノ意ナリト了解セリ

「ギブソン」氏ハ會議カ八月ニ開始サレ代換カ十一月ニ始マルトセハ其ノ間時日ノ余裕ナキヲ以テ不便起ルヘシトノ論アリト述ヘ同年八月ノ代リニ一月ニ開催スルコトトセハ其ノ決定ニ基キテ行動スル時間ニ余裕アルヘキヲ以テ寧ロ華府條約ノ精神ニ適合スルモノト信スト答ヘタリ

議長ハ右ニテハ建造設計ヲナス時日ノ余裕ナカルヘシト述フ

「ギブソン」氏ハ米國政府ハ若シ四年間此等提案ヲ考究シ其ノ計畫ヲ立テ且一月ニ於ケル會議ノ議題ヲ作成スルニ於テハ充分十一月ノ間ニ合フベシト信スト答フ

議長ハ右ハ寧ロ本會議ニテ達スヘキ協定ノ堅實ナルヤ否ヤニカカル問題ナリト述フ

「ギブソン」氏ハ本會議ニ於ケル意見ノ交換及各國政府ニヨル考究ノ後吾人ハ四年ノ討議期間ヲ有スヘク一九三一年ノ會議開催前ニハ決定的成案ヲ得ヘキナリト述フ

「セシル」子爵ハ日米兩國聲明ノ趣旨ハ主力艦問題ノ討議ヲ後廻シトセントスルニアリ余ハ英國側カ他ノ問題ニ付テ協定

成立スル迄本問題ヲ全然提起セサル事ニ同意シ得ルト思惟セサルコトヲ一言シ度シ會議期間中英國側ハ本問題ヲ提起セサルヲ約シタルモノト了解セラレサラムコトヲ望ムト述フ

議長ハ全然「セシル」子爵ト同意見ナリト述フ

議長ハ次ニ専門委員會ノ報告ニ移リ専門家カ此ノ困難ナル問題ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ幹部會ヲシテ該問題ノ討議ヲ容易ナラシメタルヲ感謝シ専門委員會議長「フイールド」中將ヲ指名シテ該報告ノ朗讀ヲ求メ項ヲ遂フテ之カ論議ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ述フ

「フイールド」中將ハ専門委員會第一報告書(附屬書第七)ヲ朗讀ス

議長ハ第一頁「クラス」Aヨリ始ムヘキヲ述ヘ第二行目ノ數字「八」ヲ「九」ニ改メ又項目毎ニ付シタル序文ハ單ニ討議ノ經過ノ陳述ニ過キス本日吾人ノ論議セント欲スルハ寧ロ結果ニアリト述フ

「セシル」子爵ハ本報告書ハ之ヲ公表シ又ハ公表ニ差支ナキモノトナス意向ナリヤト問フ

「ギブソン」氏ハ公表ヲ欲セサルモノハ何レモ抹殺スルヲ可トス可ク最初ハ公表ノ意向ナリシモ目下ノ所氏ハ此ノ點ニ付キ意見明確ヲ缺ク旨ヲ答フ

議長ハ第三項米國側ハ「他ノ國提案ニ鑑ミ其ノ原案ニ爲サントセル變更」ヲ示セル陳述ヲナシタリトアル處余ハ右陳述ノ何タルヤ記錄ヲ存シ置クヘシト思考スト述フ

「セシル」子爵モ以上ノ如キ字句ヲ有スル項ハ世人ヲシテ何故ニ右陳述ヲ公表セサルヤノ疑ヲ生セシムヘキヲ以テ右ハ米國側カ其ノ原案ノ變更ヲナシタリト書キ改ムルコトトスル方可ナルヘシト提議ス

議長ハ右陳述全文ハ報告草案ノ一ニ記載セラレタルカ其ノ後米國代表ノ要求ニ基キ現ニアル字句ニ變更セラレタルモノナルコトヲ述ヘ幹部會カ果シテ其ノ全文又ハ敘述文ノ公表ヲ欲スルヤ否ヤハ知ラントスル者ノ參考トシテ其ノ全文ヲ記載セシコトヲ欲スル旨ヲ述フ

「ギブソン」氏ハ其ノ裡專門委員會トセス幹部會ノ名ヲ以テ報告書ヲ公表スルコトヲ得ト提議ス

「セシル」子爵ハ「ギブソン」氏ニ同意シ且公表問題ハ別ナルモ報告起草ニ際シテハ其ノ公表ヲ見ルコトアルヘキヲ考慮シ公表ニ差支アル事項ハ削除スルコトトスヘキナリト述フ

石井子爵ハ今一ツ明カニシ度キ點アリトテ專門委員會ニ於テ専門家ハ其ノ意見ヲ開陳シ得ルモ其ノ決定事項ハ必ス暫定的ニシテ之ヲ幹部會ニ回付シタル際右各全權ハ自由ニ之ニ關シテ意見ヲ開陳スル事ヲ得ルコトハ幹部會カ討議ニ入ルニ先チテ同意セルコトナリト了解スル旨ヲ述フ

議長モ報告書中ノ決定事項ハ全然暫定的ノモノナル旨ニ同意ス

石井子爵ハ假令今之ヲ校訂起草スルモ右ハ必スシモ吾人カ該決定事項ニ完全ナル同意ヲナセルヲ意味スルモノニ非ス蓋シ右ハ宛カモ米國側ニ關スル事例ノ如ク「一切ノ艦種ヲ通シ總噸數制限ヲ定ムル最終的協定ニ關スル暫定的」ノモノナルヘケレハナリ

一般の問題ニ關スル合意成立セサルニ特定問題ニ關スル完全ナル合意成立スルコトナシ又公表問題ニ付テハ先ツ文案ヲ總書記局ヘ提出シ公表不可ナル點ヲ削除セシメテハ如何ト述フ

「セシル」子爵ハ之ニ同意シ只總會開催迄ハ何事モ決定シ難シト述フ

石井子爵ハ世人ニ決定濟ト思ハシムルモ事實幹部會ノ決議ヲ經サル點ヲ公表スルハ世人ヲ欺クコトトナルヘク此際公表スルノ望マシキヤニ付疑ハサルヲ得スト論ス

「セシル」子爵ハ多クノ人ノ目ヲ通シタル本文書ハ何等カノ形ニ於テ必ス公表サルヘキモノナリト述フ

議長ハ「専門家暫定的勸告」ト稱スレハ可ナラスヤト問フ

「セシル」子爵ハ本報告カ最終文書ニ非サル點ニ付石井子爵ニ同意シタルモ總會ハ幹部會ノ決議ヲ變更シ得ルノ權限ヲ有スルニ鑑ミ幹部會ノ決定事項カ最終決議トシテ取扱ハルルヲ見ルハ遺憾ナルカ故ニ出來得ル限り之ヲ暫定的形式ニ置クコ

トトシ度シト述フ

右ニ關スル討議ノ末結局同日幹部會ハ次ノ如キ暫定的勸告ヲ包含スル專門委員會報告ヲ審議シタル旨ノ豫備的聲明ヲ發スルニ決定セリ更ニ報告書第二頁第三項中ノ「ヲ示セル陳述ヲナシタリ」トノ字句ヲ「米國側ハ其ノ原提案ニ或種ノ變更ヲ加フル旨ヲ述ヘタリ」ト改ムルコトニ合意成立ス

議長ハ本日午前中巡洋艦問題ヲ論スルノ可否ヲ問ヒ

石井子爵ハ日本側ハ潛水艦問題ヲモ取扱ヘル聲明ヲ提出スル意向ナル所右ハ一切ノ補助艦ヲモ包含スルヲ以テ暫ク之ヲ延期シタキ希望ナリト述フ

議長ハ然ラハ「クラス」B即チ驅逐艦ノ審議ニ入ルヘシト述ヘ先ツ三頁ノ末段ニ「次ノ協定ニ達シタリ」トアルハ專門委員會ノ協定ノミニ關スルモノナリト述フ

「セシル」子爵ハ若シ公表スルコトト決定セハ誤解ヲ招カサル様若干文句ノ變更ヲ爲スノ要アリト述フ

議長ハ「次ノ協定ニ達シタリ」ナル字句ノ代リニ「次ノ暫定的勸告ヲ得タリ」ト改ムヘシト提議ス
右議長提議ハ可決セラレタリ

議長ハ驅逐艦ニ關スル勸告ニ付二三ノ點ヲ指摘シ度シト述ベ先ツ嚮導驅逐艦最大限ヲ一、八五〇噸トスルハ各艦ノ攻撃力ヲ能フ限り低下セシメントノ希望ニ矛盾ス可ク右ハ何レノ國ニモ存セザル最大排水量ニ同意スルモ同然ナリ嚮導驅逐艦ニ付テハ英帝國ノミ多少ノ經驗ヲ有スルモ英國側ハ一、七五〇噸スラ過大ナリト信スルモノナリ若シ本會議ガ却ツテ其ノ限度ヲ引上クルカ如キ結果トナリテハ甚ダ見苦シト力説ス

「ギブソン」氏ハ幹部會ハ此等ノ點ヲ討議シ此等ノ勸告ヲ變更スルノ權限アルモ此際報告ハ幹部會ノ要求セシ趣旨ニ合致セルモノアルヲ述ズルニ止メ他日逐一討議ヲ行フヲ可トスヘシト述フ

議長ハ本問題ノ討議ハ公會ノ席上ニ於テ之ヲナササルヘカラス然レトモ予ハ予ノ言ハントスル所ヲ次ノ總會迄差控フヘシ

ト述ヘタリ

石井子爵ハ今朝ノ仕事ハ報告ヲ受理シ其ノ原文ヲ訂正スルニアリ幹部會ノ討議ハ右報告中ノ勸告ニ付熟考シタル上ニテ行フヘキモノナリト述フ

「セシル」子爵ハ内容ノ討議ハ總會ニ於テ行フ方便ナラント述フ

議長ハ總會ニ於テ直ニ決定ニ到達シ得ヘシトハ思ハサルモ總會ニ於テ討議スルコト望マシク然ル後幹部會ニテ攻究シテハ如何ト問フ

「ギブソン」氏ハ今此席上ニ於テ豫備的討議ヲナサハ若干ノ問題ヲ片附ケ得ヘク從テ總會ニ於ケル討議ノ範圍ヲ縮限スルコトヲ得ヘシト述フ

石井子爵モ總會ニ入ルニ先チ數回ノ幹部會ヲ開催スル方可ナルベシト述フ

議長ハ總會附議ノ理由ハ決定ヲ求メントスルニ非スシテ公ノ席上ニ於テ意見並ニ其ノ理由ヲ發表スルノ機會ヲ得且或ル種ノ重要問題ニ付キ如何ナル程度迄公ノ席上ニ於テ同意ヲ成立セシムルコトヲ得ルカラ知ルニアリ總會モ又恐ラク決定ヲナスコトナカルヘシト述フ

石井子爵ハ總會ノ席上ニ於テナサレタル決定ヲ變史スルコト困難ナルヘキヲ以テ議長案ハ果シテ賢明ナリヤ疑ハシトナシ總會ヲ恐ルルモノニ非スト雖モ會議ヲシテ成功セシメントセバ先ツ幹部會ニ附議スル方可ナルヘシト論ス

「ギブソン」氏ハ石井子爵ト同感ニシテ幹部會ノ如キ會合ニ於テハ容易ニ讓歩シ得ルモ公會席上各國政府ノ立場ヲ聲明スルニ於テハ體面上讓歩困難トナルヲ以テ先ヅ讓歩シ得ル問題ヲ始末シ總會ニハ各意見ヲ發表スル必要アル問題ノミヲ提出スルコトトスヘシト述フ

「セシル」子爵ハ公開ノ席上ニテ討議スルノ危險ナルヲ確認スルモ非公開會合モ亦弊害アリテ山氣アル新聞ハ往々虛報ヲ傳フルコトアリ英國側ハ半公開ノ會合ニ付テハ苦キ經驗ヲ有スルモノニシテ新聞ハ吾人ノ希望通りノ報道ヲ傳ヘス又發表

シタルコトナキ意見及態度ガ吾人ノ意見及態度トシテ報道セラレ且信セラルルコト鮮カラスト述フ

「ギブソン」氏ハ何等總會ニ於ケル各人意見ノ完全ナル開陳ヲ阻マントスルニ非サルモ幹部會ニ於テ何等決定ニ達スルコトヲ得バ素ヨリ可ナル譯ナリ尤モ幹部會ニ於テ萬事ガ決定サレ得ルモノトハ信ゼスト述フ

「セシル」子爵ハ總會開催ヲ欲スルコトノミナラス寧ロ之ヲ速カニ開クヘシト希望ス

石井子爵ハ幹部會ハ未タ専門委員會ノ勸告ヲ受領シ居ラス吾人ハ世人ヲ嬉バシムルガ爲吾人ノ重大ナル利益ヲ犠牲ニ供シ難シト述フ

議長ハ未タ回答ノ用意整ハサル者ニ向ツテ不満足ナル回答ヲ強イテ求ムルモノニ非サルモ吾人ノ態度ニ付外間ニ傳ヘラルルモノアルニ鑑ミ出來得ル限リ速カニ之ヲ再說スル機會ヲ得ンコトヲ欲スル旨ヲ主張シ他日回答セラルヘキ問題ニ關シ二三質問スルコトアルヘキモ他ノ代表ヨリ直接回答ヲ求メントスルモノニ非ス單ニ各國ノ立場ヲ説明スル意味ニ於テ總會ヲ開クコト緊切ナリト說ク

「ギブソン」氏ハ之ニ同意シ只此席上豫備的討議ヲ爲シ得ルニ係ラス總會ニ於テ詳細討議ヲナスコト事實上可能ナリヤヲ疑ヒタル旨ヲ述フ

議長ハ報告ニ目ヲ通サンガ爲明日幹部會ヲ開クコト及明日ノ準備トシテ變更ヲ爲シタキ箇所ヲ簡單ニ指摘シ置キ度キコト並自分トシテハ各艦種ノ最大排水量ニ付テ討議シ其ノ艦齡ノ短縮ヲ提議シ度キコトヲ述ヘ總噸數問題ニ付テモ考慮シ度シト述フ此等ノ諸點ハ議長カ特ニ幹部會ニ於テ考慮シタキ旨ヲ述ヘタル點ニシテ右ハ報告書第三頁ニアリ議長ハ(e)(f)及(g)ヲ含ム驅逐艦ニ關スル暫定的勸告ニ關シ何等變更ノ提議アリシヤヲ問フ

「ギブソン」氏ハ第四頁(g)「華盛頓」ノ次ニ「條約」ヲ挿入スル方明瞭ナラント提議シ右ニ同意ヲ得タリ

「セシル」子爵ハ「現狀ヨリ條約上ノ狀態ニ至ル過渡の方法」ナル文句ハ一般ニ了解シ難キ旨ヲ述フ

「フィールド」中將ハ本項起草者タル米國側カ此點ヲ説明セラルル方可ナルヘシト述ヘ予ハ専門委員會ノ討議ニ於テ將來

建造スヘキ軍艦ノ性能ニ關スル協定作成ニ當リ専門委員各自カ邪心ヲ去リテ討議スルニ於テハ過渡時期ニ關シ容易ニ調節スルコトヲ得ヘキ旨ヲ述ヘントセリ蓋シ予ハ各國代表カ將來ノ爲協定セル排水量、砲力及艦齡ニ適合セサル艦船ヲ必要トスルカ如キ過渡時期ノ困難ヲ除去スル爲何等カノ變更或ハ提案ニ同意セントスルノ用意アリト信ス即チ彼等ハ將來建造又ハ起工サルヘキ軍艦ノ性能ニ關シ或種ノ協定ニ到達セントシテ努力シツツアリト信スルヲ以テナリト述フ

「セシル」子爵ハ「尙専門委員會ニ於テ到達セル協定ハ最終決定迄ハ暫定的ノモノナリ」トノ本項末句モ同様不充分ナリ既ニ初メニ凡テノ勸告ハ暫定的ナリト言ヒ今ヤ又或種ノ勸告ヲ限リテ暫定的ナリト云フハ首尾一貫セスト述フ

「ジョーンス」少將ハ米國代表ハ驅逐艦及巡洋艦ニ關スル協定ハ此種調節ヲ含マサルヘカラスト信スト述フ

「セシル」子爵ハ「巡洋艦總噸數ニ關スル決定ニ到達スル迄驅逐艦總噸數、ハ、ハ、」トシテハ如何ト提議ス

結局本項ノ再起草ハ明日迄ニ總書記局ニヨリ考慮セラルルコトニ合意成立ス議長ハ次ニ潛水艦問題ニ入ルヘキ旨ヲ述ヘ艦型及艦齡ニ關シ既ニ述ヘシ所ハ潛水艦ニモ適用セラルル旨ヲ述ヘ特ニ艦型ニ重キヲ置ク旨ヲ力説ス

「セシル」子爵ハ英國代表ノ本來望ム所ハ潛水艦全廢ニアリテソノ制限ニハ止ムヲ得ス同意シタル次第ナリ又十八節以上ノ速力ヲ出ス裝置ヲ有セサル水上艦艇ハ凡テ制限外ニ置クヘク即チ規定條件ノ一ヲ有スル艦艇ハ制限外トナラサルモノナリト述フ

議長ハ新聞公表文ニ關シ何等提議アリヤト問フ

「ウイilson」氏ハ本件取扱方ニ關シ事務總長ニ於テハ何等カノ提言ヲ希望スル旨ヲ述ヘ本文書中何ヲ發表スヘキヤハ政策問題ナリト述フ

石井子爵ハ今日ノ結果ニツキ報告文ヲ發表スルニ付テハ明確ナル意見ヲ有セサルモ單ニソノ暫定的勸告ニ過キサルヲ明ニスルニ於テハ今日又ハ明日之ヲ發表スルモ何等異議ナシト述フ

「セシル」子爵ハ公表ノ見地ヨリ見レハ公表文ハ吾人カ最善ヲ盡シタルコトヲ示スモノトナシ度ク疑問又ハ困難ト思ハル

ル點ハ之ヲ省キ單ニ結果ノミヲ公表シタシト述フ

議長ハ専門委員ノ暫定的協定ノミヲ公表シ個人的見解ハ之ヲ公表セサルヘシト述フ

「ジョーンス」少將ハ全部ヲ發表シテハ如何ト述ヘ議長ハ本報告ハ各國代表部全員ノ爲議事經過記錄中ニ保存セラルヘシト述フ

「サー、ジェイムス、ボール」氏ハ右ハ一般ニ公表セラルルヤト問ヒ

「セシル」子爵ハ從來ノ慣例異ルモ同子爵カ注意ヲ喚起シ更ニ明確ナラシメンコトヲ希望セル一項ヲ除キ他ハ全部公表ニ賛成ナリト述フ

議長ハ華盛頓會議ニ於テハ凡ユル細目ノ討議ヲモ報告書中ニ於テ公表セリト述フ

石井子爵ハ「セシル」子爵ノ指示セシ點ヲ明確ニシタル上ニテ之ヲ公表スヘキコトニ同意シ又單ニ専門委員會カ實際ニ決定セシ點ノミヲ公表スル方可ナラント述フ

「セシル」子爵ハ議事録全部ハ結局公表スヘキモノナリ只吾人ハ今其ノ中若干ヲ新聞ニ記載スルコトニ意見一致セルモノニシテ問題ハ如何ナル形式ヲ以テスルカ最良ナルカニアリト述フ

「サー、ジェイムス、ボール」氏ハ今全部ヲ新聞ニ公表スルノ要ナカルヘシト云ヒ果シテ全報告ヲ結局公表スヘキヤニ付質問ス

「セシル」子爵ハ固ヨリ然ル所ナルヲ答ヘ不一致ノ點ヲ餘リ公表セサルコトニ付テハ「ギブソン」氏ト同感ニシテ特ニ巡洋艦關係ノ報告ニ關シテ然リ即チ此點ニ付テハ未タ討議ノ方法ニ關スル提議スラ無カリシヲ以テ之ヲ「暫定的勸告」ト稱スルコト能ハサルナリト述フ

「ギブソン」氏ハ吾人ハ委員會ノ爲シタル努力ヲ示シ且本問題ヲ幹部會ニ附託スヘキコトヲ明ニスル爲本問題ヲ考慮セサルヘカラスト述ヘ議長ハ右ハ考慮セラレタリト述フ

「セシル」子爵ハ巡洋艦ノ二艦型ヲ攻究セントスル暫定的協定アリト指摘ス

「ジョーンズ」少將ハ議事録ヲ新聞ニ公表スルコトハ面白カラストセラレ本報告起草ノ目的ハ世人ニ資料ヲ供給セントスルニ在ルカ故ニ論争アル點ハ之ヲ省略セラレタリ然レトモ其ノ結果世人ヲシテ憶測ヲ逞ウセシムルニ至ルモノアルヘシト論ス

「セシル」子爵ハ此點ニ鑑ミ全部ヲ公表スルコト上策ナルヘシ只總書記局ヲシテ字句ノ訂正ヲ爲サシムルコトトスヘシト述ヘ「ギブソン」氏ハ之ニ異議ナシト述フ

議長ハ然ラハ多少字句訂正ヲ爲シタル上報告全部ヲ公表スヘシト述ヘ石井子爵之ニ同意ス

「ギブソン」氏ハ右ハ他ノ題目ヲ附スル要アルヘシト指摘ス

議長ハ總書記局ヲシテ多少ノ訂正ヲ爲サシメ之ヲ「ギブソン」氏齋藤子爵及議長自身ニ提出シ其ノ同意ヲ得タル上全文ヲ公表スルコトナレリト述フ（附屬書第八）

「サー、ジェイムス、バール」氏ハ右ハ委員會トシテ採用シタルニ非スシテ委員會ハ單ニ之ヲ考慮シタルニ過キササル旨ヲ明カナラシムル様措置ヲトルコト必要ナルヘシト注意ス

議長ハ報告問題ハ之ヲ以テ一應終了シ更ニ明日午前十時半ヨリ開始スヘシト述ヘ次テ日本全權ノ聲明ヲ求ム（附屬書第九）

石井子爵ハ左ノ趣旨ノ演說ヲナス

「日本専門家ハ日本カ何ノ程度ノ補助艦噸數ヲ要スルヤニ關シ未タ何等意見ヲ表明セス日本全權ハ茲ニ此等艦種ニ關スル要求噸數ヲ記セル陳述書ヲ提出シ同時ニ最も適當ナリト考フル巡洋艦問題討議ノ基礎案ヲ提出スヘシ本陳述書ハ既ニ非公式ニ各國全權ニ手交セルモノナルモ之ヲ幹部會ノ記錄ニ止メンカ爲茲ニ提出スルモノナリ日本全權ハ巡洋艦問題討議ノ基礎ニ關スル日本提案ニ英米兩國全權カ同意セラレンコトヲ衷心希望ス」

議長ハ日本側ノ陳述書第二項ニ關シテハ或種ノ誤解アリテ此點ニ付英國側モ一陳述書ヲ配布セリ日本側算定ノ基礎ハ英國側ト異ルヲ以テ本問題ハ甚タ複雑セル問題ナリト述フ

「フイールド」中將ハ左ノ趣旨ノ演說ヲナス

「日本陳述書ニアル英國水上補助艦勢力四七二、〇〇〇噸ハ一九二五年英國ニ於テ用ヒラレ居タル艦齡即チ巡洋艦一五年驅逐艦一二年ヲ基礎トセリ然レトモ右ハ其ノ後改正ヲ見タル結果現在ハ巡洋艦二〇年驅逐艦一六年トナリ居ルカ故ニ之ニ依リ算定セハ四七二、〇〇〇噸ニ非スシテ六六四、七四六噸ナリ勿論艦齡ノ變更ニ依リ自由ニ噸數ヲ伸縮スルコトヲ得ヘシ日英誤解ノ基ク所ハ一九二六年ニ經費節約ノ目的ヲ以テ艦齡延長ヲナシタルニ係ラス日本カ一九二五年ノ議會報告中ノ艦齡ヲ基礎トシテ算定セル點ニアリ」

議長ハ此點ニ言及シ比較ニ用フ可キ數字ハ艦齡延長後ノモノヲ以テスヘシト論シ英國側ノ配布セル陳述書ニハ此ノ點ヲ證明スト述フ（附屬書第十）

石井子爵ハ日本ノ數字ハ英國カ日本式算出法ニ從ツテ爲シタル計算ヲ基礎トセルモノニシテ之ニ依リテ四七二、〇〇〇噸ナル數字ヲ得タルモノナリト述フ

「フイールド」中將ハ日本ノ算定ニハ誤ナキモ若シ四七二、〇〇〇噸ナル日本ノ數字ヲ承認スルニ於テハ英國ハ二〇年ニ代フルニ一五年ヲ限度トシテ廢艦セサルヘカラス從テ既ニ艦齡ヲ延長セラレタル多數ノ軍艦ヲ廢艦セサルヘカラサルニ至ルト述フ

議長ハ潛水艦ニ關スル報告書第二項ニ付テ注意ヲ喚起シタシト述ヘ且石井子爵ノ陳述書ヲ同日討議スルヲ希望スルモノアリヤ否ヤヲ問フ

「ギブソン」氏ハ此等問題ハ明日ノ會合前ニ討議シタシト述ヘ次テ此機會ニ於テ米國側ヲ代表シ日本提案ハ眞ノ補助艦制限ヲナスモノニシテ米國側ノ衷心其ノ根本目的ニ同意シ且是ヲ討議ノ基礎トナスヘキヲ希望スルモノナル旨ヲ陳述ス

議長ハ次ノ問題ハ次回總會開催期日ノ件ナリト述フ

「セシル」子爵ハ明日ノ議題如何ト問ヒシニ

「ギブソン」氏ハ明日ハ巡洋艦ノ困難ナル問題ニ入ラサルヘカラサルモ此大問題ノ主要部分ヲ解決スルノ希望ヲ有セサル限リ小型巡洋艦ノ最大排水量問題ノ討議ニ入ルモ其ノ效果ナカルヘシト述フ

「サー、ジェイムス、バール」氏ハ本日午後此大問題ヲ討議セハ明日ヲ待タスシテ新聞ニ各種ノ發表文ヲ與フルコトヲ得ヘシト論ス

「ギブソン」氏ハ此等ノ問題ノ徹底的討議ヲナスニ尙多クノ時日ヲ要スヘキモ本日ハ可ナリ長文ノ發表文ヲ新聞ニ與ヘルコトトシテハ如何ト述フ

石井子爵ハ明日午前十時半ニ會合スルコトニ同意シ尙日本側カ提出シタル陳述書ヲ即刻發表スルコトニ付テハ未タ考慮シ居ラサルモ若シ英米側カ同意スルニ於テハ右ヲ發表スルヲ欲スルモノナリト述フ

議長ハ右發表ノ件ハ同時ニ英國側ノ陳述書ヲモ發表シタシト述ヘ又切ニ總會開催ヲ希望シ其ノ期日ヲ月曜日トシテハ如何ト提議ス

石井子爵ハ日本側ハ右ニ異議ナキモ總會ヲ開クモ會議ノ成功ニ寄與スル所少カルヘシト答フ

「セシル」子爵ハ明日ノ模様ニヨリ期日ノ變更ヲ要スヘキ事故發生セサル限リ月曜日午後開催スルコトトシテハ如何ト述フ

「ギブソン」氏ハ次回總會ハ英國ノ立場ヲ明カニセンカ爲メニ開催セラルルモノト信スル處其ノ他ニ提起サルヘキ問題アラハ成ル可ク速ニ其ノ旨通告アリタク米國ハ之ニ同意スルノ用意アリト述フ

石井子爵ハ月曜日總會ノ議題如何ト問ヒ

議長ハ右總會ノ目的ハ英國側ニ其ノ主張カ誤解セラレサランカ爲其ノ立場ヲ聲明スルノ機會ヲ與ヘントスルモノニシテ其

ノ提起スヘキ事項ニ付キ即答ヲ求メントスルモノニ非ス日米側ハ之ヲ幹部會ニ附スルモ可ナルヘク又ハ其ノ後ノ總會ニ於テ回答ヲ與フルモ可ナルヘシ右總會ハ一般の討議ナリ吾人ハ幹部會討議ノ進捗ヲ報告シ且吾人ノ立場ヲ再ヒ明ニスルノ機會ヲ與ヘラレンコトヲ希望スル次第ナリト述フ

午後十二時五十分閉會

第四、第三回幹部會

一九二七年七月九日金曜日於壽府

出席者

米國側

海軍少將

ヒュー、ギブソン

ヒラリー、ビー、ジョーンズ

ヒュー、ウイルソン

エイ、ダブリュ、ダレス

エイ、テイ、ロング

エフ、エイチ、スコツフィールド

海軍少將

同

英國側

ダブリュ、シイ、ブリヂマン

子爵

セシル、オブ、チエルウツド

海軍中將

サー、エフ、エル、フィールド

同

オーブリー、スミス

加 奈 陀
濠 太 利
新 西 蘭
愛 蘭 自 由 國
日 本 側

海軍大佐
ダブリュ、エイ、エデアトン
イー、ラボアント
サー、ジョセフ、クツク
海軍元帥伯爵
デ、エリ、コー
デ、エイ、エイ、コステロ

海軍大將子爵
齋 藤 實

子爵
石 井 菊 次 郎

佐 分 利 貞 男

海軍中將
小 林 躋 造

海軍大佐
豐 田 貞 次 郎

ヒュー、アール、ウイルソン

アール、エイチ、キヤムベル

佐 藤 尙 武

エイチ、アール、ハストン

エッチ、アール、ムーア

白 鳥 敏 夫

クラウズエル

海軍中佐
ド ル ー ズ

佛蘭西情報部

伊國非公式傍聽者

議長ハ本日ハ専門家ノ暫定的勸告ヲ更ニ精密ニ討議スヘキコトヲ述ヘ意見ノ相違皆無ナル如キ制限外艦艇ヲ先ツ取扱フコトトシテハ如何ト問フ

「ギブソン」氏ハ主要問題ヲ解決セサル限り受諾シ得ヘキ問題ヲ先ツ處理スルモ無益ナルヘシト述フ

「セシル」子爵ハ協定可能ナル問題ヲ先ツ纏メテ會議ノ空氣ヲ善導セハ他ノ難問題ヲ解決スルコト一層容易トナルヘシト思惟スト述フ

議長ハ潜水艦巡洋艦又ハ驅逐艦ノ孰レヲ先ニ討議スヘキヤヲ委員會ニ諮問ス

「ギブソン」氏ハ巡洋艦ヨリ初ムルノ可ナルヲ力説シ若シ巡洋艦問題ニ關シ協定ニ達スルコトヲ得ハ其ノ他ノ細目ニ關シ協定スルコト困難ニ非サルヘシト述フ

石井子爵ハ日本側ハ巡洋艦ヨリ初ムルニ付異議ナシト述フ

議長ハ英國側ハ其ノ見解ニ關スル一切ノ資料ヲ提出シタリト認ムト述フ

「ギブソン」氏ハ巡洋艦問題ノ眞ニ決定的解決方法ヲ講スルニ先チ執ルヘキ根本手段ハ日英間ノ懸隔ヲ少クトモ討議ヲナシ得ル様接近セシムル爲何等カノ手段ヲ講スルニアリ然ラスンハ本問題ノ諸點ヲ討議スルモ無意義ナルヘシト思惟ス米國側ハ日本提案ノ指示スル水上艦ノ標準ヲ討議ノ基礎トスルニ率直ニ賛同ス同時ニ米國ノ原提案ハ一定範圍ノ噸數ヲ包含ス吾人ハ又該原案ノ最大限度ヲ超ユル數字ニ付テモ討議スルノ用意アル事ヲ聲明セリ吾人ハ右聲明ヲ不承不承ナセリ蓋シ噸數ヲ大ナラシムレハ夫レ丈確定的制限ノ目的ヨリ遠サカル次第ニシテ吾人ノ高キ噸數標準ニ付討議セントスル所以ノモノ

ハ實ニ合理的の制限協定ニ達センコトヲ熱望スルカ爲ナリ吾人カ斯克米國側ノ意見ヲ再說スル理由ハ日英双方ノ立場ヲ妥協スル何等カノ方法ヲ發見セントノ熱望ヲ有スルコトヲ明カニセンカ爲ナリ之カ爲ニハ日英双方カ相互ニ歩ミ寄ルコト肝要ナリ單ニ日米又ハ英米間ニ協定成ルモ之ヲ以テ足レリトナスヘカラス協定ハ三國ノ凡テカ受諾スヘキモノナラサルヘカラス事實今日ノ所米國側ハ日本案ヲ討議ノ基礎トナスニ異議ナキモ若シ日米兩國ニシテ他ノ案ニ同意スルコト能ハストセハ右日本案ヲ討議スルモ何等ノ效果ナカルヘシ自分一個人トシテ云ヘハ日本側カ適當ノ時機ニ於テ其ノ昨日提出セラレタル興味アル提案ニツキ更ニ何等説明セラルルニ於テハ幸ナリト思惟ス蓋シ右ハ兩極端ニ立ツ見解ヲ相互ニ歩ミ依ラシムルニ貢獻スル所大ナルヘケレハナリト述フ

石井子爵ハ日本提案ノ主要點ハ米國案ノ最低數字ヲ討議ノ基礎トスルニアリ若シ英米兩國側ニ於テ右數字ヲ主義上受諾セラルニ於テハ討議ヲ進捗セシムルコト甚大ナリト信ス自分ハ若シ英國側カ水上補助艦總噸數四十五萬噸ヲ基礎トシテ討議スルニ同意セラルルニ於テハ幸ナリト思惟スルモノナリト述フ

議長ハ英國ノ右數字ニ對スル困難ハ右數字カ現下自國ノ安全ヲ保ツニ必要ナリト信スル數字ヨリ遙カニ低キカ爲ナリ吾人ハ日米兩國カ如何ナル種類ノ艦艇ヲ建造セント欲スルカラ知ルニ非ンハ總噸數ニ付考慮スルコト絕對ニ不可能ナリ若シ日米兩國ニシテ大型巡洋艦ヲ多數建造シ且驅逐艦ノ排水量ヲ増大セシムルニ於テハ右ハ必然英國ノ總噸數ヲ増加スルコトナルヘシ吾人ハ吾人ノ要求ヲ最低限度迄低下セントシテ努力スルモノナルモ日米兩國カ爲サントスル所ヲ知ルニ非ンハ何等束縛ヲ受クルヲ欲セサルナリ蓋シ斯克ノ如キハ多數ノ艦艇ヲ廢棄セシメ又ハ必要ナル艦艇ヲ建造セシメサルニ至ルヘケレハナリト述フ

議長ハ更ニ日英兩國ハ大型巡洋艦ノ數ヲ制限スルコトニ關シ意見一致セリ此點ニ付協定ヲ作成スルコトヲ得ハ低キ噸數協定ニ一步ヲ進ムルコトトナルヘシ英國ノ欲スル所ハ國防ノ安全ニアリ國防ノ安全ハ英國ニトリテハ主トシテ隻數ニ係レリト述フ

石井子爵ハ本會議ノ共通ノ希望ハ總噸數ノ低下ニアリ三國ニ一定數ノ巡洋艦ノ必要ナルハ固ヨリ之ヲ認ム故ニ問題解決ノ道ハ大型巡洋艦ノ數ヲ制限スルニアリ例ヘハ英米各十隻、日本七隻トナスカ如シ而シテ三國ハ殘餘ノ噸數ヲ小型巡洋艦ニ振向クルコトヲ得ヘシト述ヘ右提議ハ齋藤子爵之ヲ支持シタルヲ以テ他ノ全權モ之ヲ考慮セラレンコトヲ希望スト述フ

議長ハ若シ此點ヨリ初ムレハ噸數協定ニ到達スルニ頗ル有利ナルヘシト思考スト述フ

石井子爵ハ日本ハ一定數ノ艦艇ヲ艦齡滿期後モ保有スルコトヲ許サルニ於テハ總噸數問題竝小型巡洋艦隻數問題ニ一步ヲ進ムルコトヲ得ヘシト「ブリヂマン」氏ノ提議ニ好意的考慮ヲ加フル用意アリト述フ

「ギブソン」氏ハ大型巡洋艦ニ關シテハ米國ハ割當噸數ヲ如何ニ使用スルカニ關シ其ノ立場ヲ既ニ明確ニ陳述セリ然レトモ米國カ何ヲ爲サント欲スルカニ付明示スルコトハ頗ル困難ナリ蓋シ右ハ從來米國カ主張シ來レル如ク相對的問題ナレハナリ米國ハ現在大型八吋砲巡洋艦ヲ一隻モ有セス然レトモ英國海軍ハ一萬噸巡洋艦既成四隻建造中十一隻ヲ有スト承知スト述フ

「フイールド」中將ハ右ノ如ク多數ナラス「ギブソン」氏ハ老齡艦ヲ多數ニ入レラレタルニ非サヤト駁ス

「ギブソン」氏ハ然ル旨ヲ答ヘ要スルニ此種巡洋艦ニ關スル英國側ノ欲望ハ米國カ割當噸數ヲ如何ニ使用セントスルカ將來此種巡洋艦ヲ何隻建造スヘキカ豫想ノ下ニ計畫ヲ立ツヘキカ又右計畫ヲ何時中止シテ小型艦艇ノ建造ニ專念スヘキカニ甚大ナル影響ヲ及ホスモノナリト述フ

「フイールド」中將ハ個々ノ艦艇ノ性能ヲ考慮スルニ先チ巡洋艦ノ總噸數ヲ考慮スヘシトノ米國側要求ハ海軍軍人タル立場ヨリ見レハ非常ナル困難ヲ提起ス海軍軍人ニトリテハ總噸數ハ其ノ中ニ包含セララル艦艇ノ攻撃力ヲ示スモノニ非ス總噸數大ナレハト必スシモ攻撃力ノ大ナルヲ意味セス英國側ハ四十萬噸ヲ受諾スヘシト要求セラレ且右數字ハ米國ニトリテハ一萬噸八吋砲二十五隻並八吋若クハ六吋砲裝備ノ小型巡洋艦約二十隻ヲ意味スルモノナル旨述ヘラレタリ若シ英國ニシテ此旨目的數字ヲ受諾セサルヘカサルモノトスレハ英國ハ單ニ老齡艦ヲ代換スルニ排水量約三萬八千噸ノ巡洋艦ヲ以

テスルヲ得ルノミ英國ノ提議ニ係ル總噸數ヲ以テ海軍力ノ擴張ナリト評スルハ不可ナリ蓋シ海軍力ナルモノハ個々ノ艦艇ノ如何ニヨリテ異ルモノナレハナリ八吋砲一萬噸巡洋艦三十隻ノ攻撃力ハ六吋砲五千噸ノ巡洋艦六十隻ノ攻撃力ヨリモ遙カニ大ナリト信ス故ニ此總噸數ノ數字ハ誤解ヲ生セシムルモノナリト確信ス而シテ專門委員會ハ總噸數ヲ盲目的ニ默認スルニアラスンハ個々ノ勢力單位ニ付協定スルコト能ハストノ聲明ニ當面セリ之レ正ニ各自國ノ爲軍備ヲ考慮シツツアル海軍軍人ニ依ツテ用ヒラレタル方法ト正反對ナリ假令總噸數ニ於テ協定成ラストスルモ吾人ハ單艦ノ攻撃力ニツキテ或程度ノ協定ヲナシ然ル後右所定ノ性能ヲ有スル艦艇ノ隻數又ハ總噸數ノ制限ヲ考慮スルニ至ランコトヲ熱望シテ止マサルモノナリ各艦種ノ性能ヲ定ムルコト詳細ナレハ詳細ナル丈其ノ總噸數ニ付協定ヲ成立セシムルコト益々容易ナルヘシト論ス

「ギブソン」氏ハ吾人ハ他ノ方法ニテ本問題ヲ解決スルコト可能ナルヘシ即チ一萬噸艦ニ關スル米國ノ數字ハ一定ノ噸數標準ノ下ニ建造セラルヘキモノヲ理論的ニ見積タルニ過キス本件ニ付テハ現存艦艇力寧ロ標準トナルモノナルヲ以テ若シ吾人カ條約所定ノ期間内ニ於ケル建造計畫ヲ知ルヲ得ハ吾人ハ本件ヲ今一層理智的ニ討議スルコトヲ得ヘク英國ノ一萬噸巡洋艦建造計畫ヲ以テ討議ノ出發點トセハ本件ニ付一層精確ナル見積ヲ立ツルコトヲ得ヘシト論ス

議長ハ「ギブソン」氏ノ提議ハ正規ノ計畫ニ着眼シテ各國ノ企圖スル所ヲ見ルヘシト云フニアルモノト解スト述フ

「ギブソン」氏ハ吾人ハ本件ヲ充分ニ考量セント欲ス總噸數ヲ標準トシテ建造計畫ヲ立ツルコトハ健全ナル方法ナリト考フ加之、若シ特殊艦型ニ付割當噸數若クハ建造計畫ニ依リ協定ニ達スルモ之カ果シテ眞ノ軍備制限ナリヤ否ヤハ之ヲ總噸數ニ換算シテ決セサルヘカラス之レ他ノ方法ニ依リテ問題ヲ解決スルコトヲ得ヘシト述ヘタル所以ナリト述フ

「ジョーンズ」少將ハ海軍専門家ニトリ如何ナル事項カ問題トナルヤヲ論議スルヲ欲セサルモ唯一言シタキハ米國側ハ總噸數ヲ述フルニ當リテハ艦ノ大サト備砲口徑ノ制限ヲ規定シ且大型巡洋艦ニ付米國ノ必要トスル噸數ヲ提示セリ各國ハ最大制限噸數ニ付協定ノ限度迄建造スルノ義務アルニ非ス各國ハ右總噸數ヲ各其ノ適當ト認ムル所ニ從ツテ使用スルヲ得ヘシ米國ノ今後十年間ニ於ケル建造計畫ヲ豫メ告グルコト能ハサルモ米國側ハ其ノ何レノ提議ニ於テモ總噸數ノ使用方ニ付

明確ナル觀念ヲ表明セリ而シテ米國側ノ數字ハ海軍専門家ヲシテ米國ノ將來トルヘキ措置ニ付明瞭ナル知識ヲ與フルニ足ルモノナリト信スト述フ

「セシル」子爵ハ曩ニ日本側ハ問題解決ノ第一歩トシテ八吋砲大型巡洋艦ヲ米國十、英國十、日本七ト限ルノ案ヲ提示セル處自分ハ英國海軍専門家カ如何ニ之ヲ見ルヤヲ知ラサルモ斯カル明白ナル制限案ヲ出發點トセハ殘餘ノ制限ニ關スル最良ノ方法ヲ討議スルヲ得ヘシ自分ハ大型巡洋艦ニ關聯シテ何等カノ點ニ付協定ヲ成立セシメ得ルニ於テハ之ヲ爲スノ價值アリト信ス日本案ノ詳細ハ英國専門家ノ審査ヲ待ツヘキモ概言スレハ英國側ハ日本案ニ好意ヲ有スルモノナリト述フ議長ハ之ニ同感ナリト云フ

「ジョーンズ」少將ハ米國側ハ此點ヨリ制限問題ニ着手スルコト能ハス米國側ハ總噸數ノ區分ニ關シ其ノ必要ヲ考慮スル爲總噸數ノ何タルヤニ關シ何等カノ概念ヲ有セサルヘカラス或ル艦級中一ツノ型ノ艦艇ノ噸數ノミヲ制限シ然ル後ニ總噸數ノ討議ニ入ルコト能ハサルナリト述フ

「セシル」子爵ハ若シ全問題ヲ後日再討議ニ附スヘキ留保附ニテ何等カ假協定ニ達スルコトヲ得ハ大イニ望マシカラスヤト提議ス

「ジョーンズ」少將ハ米國側ハ總噸數又ハ其ノ他ニ於テ幾何ナルヤヲ知ルニ非サレハ一萬噸級最大型巡洋艦ノ噸數制限ニ假ニモ同意スルコト能ハス最大型巡洋艦ニ對スル米國ノ必要ハ巡洋艦勢力ノ總噸數ノ大小ニ依ツテ定マルモノナルカ故ニ米國側ハ一萬噸級巡洋艦ヲ制限シ然ル後四十萬ト云フ總噸數ノ制限ヲ論スルコト能ハサルナリ米國側ハ提案毎ニ其ノ欲スル最大限度ヲ明示セリト述フ

議長ハ巡洋艦問題ニツキテ承知セルトコロヲ綜合スレハ米國側ハ一萬噸級二十五隻ヲ提案セリト述フ

「ジョーンズ」少將ハ右隻數迄建造スルノ意ナシト述フ

「ジュリコー」伯爵ハ米國側ハ一萬噸級巡洋艦ニ於テ二十五萬噸以下ニ下ルコトヲ得スト了解セリト述フ

「ジョーンズ」少將ハ右ハ米國原案中ニ述ヘ居ラス然レトモ四十萬噸ヲ基準トシテ表ヲ作ルニ當リ大型艦ヲ二十五萬噸トシ右基準カ縮小セラルルニ於テハ大型艦ノ隻數モ減スヘシト述ヘタリ米國側ハ一萬噸級巡洋艦ノ隻數ハ總噸數ノ如何ニ依ツテ定マルモノト信スト述フ

「ジェリコー」伯爵ハ大型巡洋艦ヲ一定數有セントスルハ合理的ナリ右隻數ハ總噸數ニ關係ナキニ非サヤト問フ

「ジョーンズ」少將ハ米國側ハ關係アリト解スト答フ

「ジェリコー」伯爵ハ比率ハ四十對二十五即八分ノ五ニ當ルト指摘ス

議長ハ右ハ攻撃力ノ莫大ナル増加ヲ意味スルモノニシテ自國ノ安全ノ爲一定數ノ巡洋艦ヲ必要トスル英國ハ他國ノ企圖ヲ知ル事ナクシテ其ノ總噸數ヲ定ムルコト不可能ナリ英國側ハ攻撃力ノ制限及大型巡洋艦ノ隻數減少ノ提議ニ賛成ス石井子爵ノ一〇、一〇、七ナル明確ナル數字ヲ直チニ採用スル次第ニ非サルモ右數字ニ近似スル數字ニ同意セントスルノ意アリ若シ右ニシテ確定セハ英國ノ安全ノ爲他ノ艦艇ニ付如何ナル數字ヲ必要トスルヤヲ考慮スルコト容易トナルヘシト論ス「セシル」子爵ハ「ジョーンズ」少將ノ案ニ依リ一萬噸級巡洋艦ヲ十隻ニ限ルトセハ殘餘ノ巡洋艦ハ合計六萬噸ニ限ラルコトトナルヘシ而シテ若シ米國カ單艦六千噸トシテ建造スルトセハ更ニ十隻ヲ得ヘク即チ總數二十隻トナルヘシ此結果ハ右二十隻ノ巡洋艦ハ全部戦闘艦隊用トシテ必要ナルヘク通商路保護用トシテハ一隻モ餘ササルコトトナルヘシコレ巡洋艦ノ四十分ノ二十五ハ大型ナラサルヘカラストスル米國側主張ノ結論ナリト指摘ス

「ジョーンズ」少將ハ米國側ハ喜ンテ日本案ヲ討議ノ基礎トナスコト既述ノ如シ然レトモ米國側ハ日本案ノ下ニ於テ一萬噸級巡洋艦二十五隻ヲ要求スル意アルニアラスト述フ

議長ハ右ハ英國海軍ハ四十萬噸ヲ超ユヘカラストノ意トナルト述フ

「ジョーンズ」少將ハ米國側ハ右數字ニ達スルヲ欲セス米國側ハ喜ンテ日本案ヲ討議ノ基礎トシテ受諾スヘシ只米國側ハ四十萬噸以上ハ斷シテ考慮スルコト能ハスト述ヘタルモノナリ蓋シ右噸數以上ニテハ公正ナル軍備制限ノ數字トシテ自國ニ

持チ歸ルコトヲ得サルカ爲ナリト述フ

「ギブソン」氏ハ米國側ハ各國カ其ノ欲スル所ヲ建造スルノ權利ヲ疑ハントスルモノニ非サルモ吾人ハ受諾シ得ヘキ且其ノ軍備制限條約ヲ作ル爲ニ此處ニ集マレリ米國側ハ米國上院カ批准ヲ欲セサル如キ條約ニハ同意スルコト能ハス米國側ハ慎重考慮ノ後若シ四十萬噸迄上レハ上院ノ受諾殆ント不可能ナルヘキヲ憂フルニ至レリ若シ英國側カ自國ノ利益ヲ擁護スル基本的義務ト矛盾スルコトナクシテ右數字以下ニ同意スルコトヲ得ハ満足ノ至リナリ若シ然ラストスルモ米國側ハ其ノ自國ニ於テハ受諾サルヘシト認ムル數字ヲ固守シタルモノニシテ何等他國ニ對シアル數字ヲ押シ付ケントシタルニ非サルコトヲ認メラレ度シト述フ

「ジョーンズ」少將ハ英國側ハ巡洋艦十隻ヲ討議ノ基礎トシテ受諾セラルルモノト了解スル處他ノ巡洋艦ニ付テハ最小限度何隻又如何ナル艦型ヲ要求セラルヤト問フ

議長ハ若シ他國カ其ノ意嚮ヲ明示スルニ於テハ英國側モ之ニ應スヘシト答フ
「ジョーンズ」少將ハ米國側ハ既ニ各艦種ノ限度ヲ述ヘタル際ニ明示セリト述フ

石井子爵ハ尙本件協定ノ見込アリト信スト述ヘ米國ノ要求セル大型巡洋艦二十五隻ナル數字ハ巡洋艦總噸數ヲ四十萬噸トシタル假定ノ下ニ出サレタルモノト解ス予ハ最初右數字カ米國原案ヨリモ約三割三分方ノ増加ヲ示スモノナルヲ見テ憂慮セリ米國側ハ後ニ至リ右數字ヲ引下ゲ一切ノ水上補助艦總噸數四十五萬噸ヲ討議ノ基礎トスルニ同意セリ此場合米國ハ右二十五隻ナル數字ヲ減スルナルヘシト述フ

議長ハ右ハヨク了解セリ然レトモ英國ガ四十萬噸以下ニ下ルニ非レハ大型巡洋艦ニ付何等ノ削減ヲ見サルヘキコト明ナリ英國側ハ右基礎ニ於テハ討議ヲ續クルコト不可能ナルヘシ若シ本件討議ニ當リ各國カ今後數年間ニ於テ如何ナル計畫ヲ有スルカヲ示セル建造計畫ヲ討議スルヲ得ハ英國側ハ總噸數ヲ出來得ル限り低キニ止ムル様努力スヘシ英國側ハ必要以上ニ有スルコトヲ望ムモノニアラス又今總噸數限度ヲ決定セントスルモノニアラスト述フ

「ギブソン」氏ハ米國側ハ協定ニ導ク可能性アラハ如何ナル性質又ハ如何ナル種類ノ提案ヲモ考慮スヘシト述フ
「フィールド」中將ハ米國側ニ建造計畫ヲ送り置ケルモ右ハ小型巡洋艦ノ性能ニツキ合意ナキヲ以テ絶對的精確ナリト云ヒ
難シ若シ一九三六年迄ニ大型巡洋艦十隻出來スルモノトスルモ英國ハ尙三十二隻ノ華府會議前ノ巡洋艦ニシテ艦齡未滿ノ
モノヲ有スヘク又單艦噸數及性能未定ナル約二十八隻ノ新小型巡洋艦ヲ建造セサルヘカラス英國側ハ出來ル限り精確ナル
建造計畫ヲ提示セルモ米國側ハ未タ右條件ノ下ニ建造セントスルモノニ付何等提示セルモノナシト述フ

「ジョーンズ」少將ハ米國ハ建造計畫ヲ立テ毎年一定數以上ノ艦艇ヲ建造セサルヘキヲ約スルコト能ハス米國ハ未タ一萬噸
級巡洋艦ヲ一隻モ建造シ居ラス勿論米國側モ毎年ノ建造隻數及最大總噸數ニ付テハ茲ニ述フルコトヲ得ヘキモ若シ議會カ
豫算ノ毎年ノ割當ヲ拒マハ何事ヲモ爲スコト能ハサルナリト述フ

「セシル」子爵ハ右ハ單ニ外部的制限ニシテ此等巡洋艦ヲ建造セサルヘカラサルノ意ニ非ス只一定數以上ニ建造スル能ハ
スト云フニアリ若シ特定ノ年ニ建造セサルコトアラハ翌年餘計ニ建造スルコトヲ得ヘシ英國側ノ見解ヲ諒解シ之ニ應セン
トセラルルコト最必要ナリト力説ス

議長ハ驅逐艦ト巡洋艦トヲ同一「カテゴリー」トシ又ハ之ヲ別個ニ取扱ヒテ建造計畫ノ問題ニ付會議ヲ再開シテハ如何、
一九三一年又ハ其ノ附近迄ノ建造計畫ノ限度ニ關シ現在吾人ノ代表スル政府ノ意見ヲ表明スルニ止マルコトトシテハ如何
ト諮ル

「ギブソン」氏ハ米國側ハ喜ンテ此種提議ノ可能性ヲ研究スヘシ右ハ多人數ノ會合ニ於テ取扱ハサル方可ナルヘク必要ナ
ル數字ニ依リ次回會議迄ニ非公式ニ討議スルコトトスヘシト述フ

石井子爵ハ日本専門家ハ一九三一年以後ニ互ル建造計畫ヲ提出スルノ地位ニアラスト述フ

議長モ一九三一年迄ニテ可ナルヘシト答フ

「セシル」子爵ハ其ノ時ニ於テ各國ノ地位ヲ見ルハ興味アルコトナルヘシ、一九三一年迄ニ各國カ各自國ノ爲合理的ナリ

ト考フル數字ヲ示ス記錄ヲ得ルナルヘシト述フ

「ジョーンズ」少將ハ米國ハ一九二九年迄ニ一萬噸巡洋艦ヲ一隻モ完成スル能ハスト指摘シ米國ノ一九三〇年建造計畫ハ事
實上作成セラレタルモ一萬噸巡洋艦八隻以上ヲ建造スルコト能ハサルヘシト述フ

議長ハ英國側ハ一萬噸巡洋艦ヲ欲セサルモ華府會議ニ於テ定メラレタル制限ノ結果己ムナク之ヲ建造スル次第ナリト述
フ

「ギブソン」氏ハ此型ノ最大限ヲ定ムル決定ハ「ブリッヂマン」氏ノ先任者タル「リー」卿支持セラレタル處ニシテ「リー」
卿ハ當時右ノ數字ハ一萬噸ノ大サニ近キ艦艇カ存在セルノ事實ニ基ケルモノナルコトヲ指摘セラレタリト答フ

「セシル」子爵ハ各國共一九三一年迄ノ計畫ヲ提示スルコトト致度シト提議ス

「ギブソン」氏ハ米國側ハ其ノ有スル一切ノ資料ヲ提供スヘシト述フ

「セシル」子爵ハ若シ日本側モ同様ノ措置ニ出テラルルニ於テハ英國側モ喜ンテ之ヲ爲スヘク大型小型ノ巡洋艦ニ關シテ
一九三一年迄ノ最低限度ノ低キ數字ヲ提出スヘシ然レハ此等ニ付多少ノ變更ヲ加ヘテ合意スルヲ得ルヤ否ヤヲ見ルノ基礎
ヲ得ルニ至ルヘシト述フ

「ギブソン」氏ハ米國側ハ此等ノ數字ヲ本能的ニ總噸數ニ照シテ考慮スヘシト述フ

「ジョーンズ」少將ハ一九三一年迄ノ建造計畫ヲ示スコトハ米國側ニトリテ事實上不可能ナリ米國ニハ目下ノ處建造計畫ナ
ルモノ存セス米國ノ建造計畫ハ本會議ニ於テ爲サントスル處ニ係ルコト極メテ大ナルモノアリ勿論米國側ハ其ノ所有セン
ト欲スル所及來年度ニ起工セント欲スル所ニ付言明スルコトヲ得ヘシ米國側ハ現在小單位ノ例外ヲ除キ全部一九二八年半
迄ニ開始セラルヘキ一計畫ヲ考慮シツツアリト述フ

「セシル」子爵ハ何等カ此種ノモノアルコト有利ニシテ若シ此種計畫ノ問題ヲ討究セントセハ必然比較スヘキ計畫ナカル
ヘカラスト指摘ス

「ギブソン」氏ハ此點ニ關シテハ非公式討議ヲ行フコトニ依リ進捗ヲ計ルヲ得ヘシ若シカクシテ何等カノ結果ニ到達セハ之ヲ専門委員會ニ附議スルヲ得ヘシト述フ

石井子爵ハ右ニ同意ス

議長ハ驅逐艦ノ問題ニ關シテハ之ヲ別個ニ考慮スヘキヤ否ヤニ關シ決定セサル限リコレ以上進ムコト能ハサルモ尙潛水艦級ノ問題アリ之ニ關シテハ多ク意見ノ相違ナシト述フ

石井子爵ハ最重要ナル巡洋艦問題ニ付協定成ラサル以上潛水艦問題ニ付討議スルモ特ニ利益アリトハ思ハサルモ若シ他國側ニシテ希望セラルルニ於テハ日本側ハ之ヲ討議スルニ異議ナシト述フ

「ギブソン」氏ハ石井子爵ト同感ニシテ凡ユル努力ヲ傾倒セサルヘカラサル根本的問題ヲ解決セサル限リ細目ニ互リテ討議スルモ實際上利益少カルヘシト述フ

「ギブソン」氏ハ尙前日爲シタル主力艦問題ノ討議ニ關スル聲明ヲ公表スルノ件ニツキ幹部會ノ意向如何ト問フ
議長ハ英國側及日本側ノ聲明ヲ公表スルコト頗ル結構ナルヘシト考フト答フ

「ギブソン」氏ハ問題ハ幹部會ノ席上生シタルモノニシテ同問題ノ討議ニ際シ次ノ聲明ナサレタリトシテハ如何ト述フ
石井子爵ハ右ニ同意ス

議長ハ英國ノ留保モ同様含マシムヘシト述ヘ尙本日ノ會合ニ付テハ巡洋艦問題ノ討議ヲ進メタリトナシテハ如何ト諮ル
討議後書記局ハ新聞公表文(附錄參照)ヲ起草スヘク命セラル

石井子爵ハ月曜日ニ開カルヘキ總會ニハ何等特別ナル議題ハナカルヘシト了解スト述フ
議長ハ英國側ハ其ノ立場ヲ宣明セントスルモ別ニ速答ヲ欲セス又余ハ深く討議スルヲ賢明ナリトモ思ハスト述フ

午前十一時四十五分閉會

附錄一新聞公表文

今朝ノ幹部會ニ於テ第二回總會ヲ七月十一日(月曜日)午後三時開催ニ決定セリ聯盟事務局ノ大會議室ハ目下使用中ナルニ付會議ハ「ホテル、デ、ベルグ」ノ第一階大廣間ニ於テ開催セラルヘシ新聞記者ニシテ右會議ニ席ヲ留保セント欲スル者ハ遅クトモ七月十一日(月曜日)午前十時迄ニ聯盟事務局受附ヘ名刺ヲ差出サレタシ
巡洋艦問題ノ討議開始セラレ考究ヲ促進スヘキ諸案提出セラレタリ主力艦ニ關スル英國提案ノ討議中日本側ハ左ノ聲明ヲ爲セリ

「英國提案中ニハ日本政府カ熟慮ノ上ニ非レハ其ノ所見ヲ述ヘ難キ技術的問題ヲ包含セリ同時ニ日本政府ハ主力艦ニ關シ或ル種ノ了解ニ達センカ爲本問題ヲ上程スルコトヲ有利ナリト思考ス但シ本問題ノ處理ニ當リテハ之カ本會議ノ主要目的タル補助艦制限ノ支障トナラサル様注意スルコト肝要ナリ故ニ主力艦問題ハ補助艦ニ關スル協定成立後之ヲ討議スルコト適當ナルヘシ」

米國側ハ左ノ聲明ヲ爲セリ

「米國政府ハ主力艦及航空母艦ノ艦型及代換年齡ニ關スル英國提案ヲ慎重考慮セリ

予ハ「ブリヂマン」氏ニ對シ若シ補助艦ニ關シ協定ニ達スルヲ得ハ前記提案ニ關シ非公式ニ意見ノ交換ヲ行フコトニ反對ナキヲ告クルヲ得ルヲ欣幸トス右意見ノ交換ハ一九三一年ノ會議ニ於テ行ハルヘキ決定ヲ何等害スヘキ性質ノモノニ非スシテ寧ろ各國政府ヲシテ英國案ニ付周到ナル攻究ヲ遂ケシムル爲該案ニ關スル資料ヲ提供スル性質ノモノタルコトヲ希望ス予ハ本會議ノ他ノ仕事カ首尾好ク完了シタル時ハ本會議ハ右英國提案ヲ華府條約國諸政府ニ附議スル旨ノ決議ヲ爲サンコトヲ勸奨シタク又本會議ハ更ニ調印國全部カ同意スルニ於テハ一九三一年ノ會議ハ同年八月ニ開催セスシテ之ヲ同年早々ニ繰上ケ以テ同年十一月ヨリ實行セラルヘキ主力艦代換計畫ニ關シテ同會議ノ採用スヘキ決定ノ努力ヲ確實ナラシムル爲十分ナル時間ヲ有セシメンコトヲ勸奨ス」

英國側ハ假令一切ノ他ノ點ニ關シ完全ナル協定ナラストスルモ本會議中本問題ヲ提起セサルノ義務アルモノト思考スル能

第五編 専門委員會議事録

第一、第一回専門委員會

假議長 海軍中將

サー、エフ、エル、フィールド

一九二七年六月二十二日（水曜日）於壽府

出席者

米國側

海軍少將 エフ、エイチ、スコフィールド

海軍大佐 エイ、アンドリウス

海軍大佐 ダブリュ、ダブリュ、スミス

英國側

海軍中將 サー、エフ、エル、フィールド

海軍大佐 ダブリュ、エイ、エジャートン

海軍大佐 エイチ、ジェイ、フィークス

海軍中將 エイ、エフ、ビール

英本國

濠太利

新西蘭

日本側

海軍少將 原 敢二郎

海軍大佐 佐分利 貞男

海軍大佐 堀 悌吉

海軍大佐 豊田 貞次郎